

2020年（令和二年） 9月4日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

## ■ 概況

8/20~8/26のNYMEX・WTI先物市場は、42.34~43.39ドルの範囲で推移した。

8月27日は、ハリケーン「ローラ」はルイジアナ州に上陸後、熱帯低気圧に勢力を弱めたが、前日までの高値の反動で、4営業日ぶりに反落した。ハリケーンの影響で、一時はメキシコ湾岸の日量150万バレルを超える原油生産施設、日量200万バレルを超える石油精製施設が操業を停止した。10月限終値は前日比0.35ドル安の43.04ドル。

週末28日は、ハリケーンの影響は想定より限定的で、原油価格への影響はあまりなく、週末の持ち高調整により、わずかに続落した。米国稼働石油掘削機は180基と前週比3基減で2週ぶりの減少だった。10月限の終値は前日比0.07ドル安の42.97ドル。

週明け31日は、アブダビ国営石油(ADNOC)のアジア向け10月原油出荷の30%削減発表で、朝方堅調に推移したが、次第に石油消費の先細りへの警戒感により軟化、3営業日続落した。10月限終値は前週末比0.36ドル安の42.61ドル。

9月1日は、米中両国の製造業景況感指数の改善を受けて、石油消費拡大への期待から、4営業日ぶりに反発した。翌日発表予定の米国の石油在庫週報の減少予想、また、米国株式市場の好調も、支援材料となった。10月限終値は前日比0.15ドル高の42.76ドル。

2日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、先週末の原油在庫が前週末比970万バレル減少と市場予想(370万バレル減)を上回る6週連続の取り崩しだったものの、原油在庫減はハリケーンの影響に過ぎないとの見方やOPECの8月産

油量の増加報道等から、大幅に反落した。10月限の終値は前日比1.25ドル安の41.51ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は8月20日~26日の間43.70~44.90ドルの範囲で推移した。8月27日44.70ドル、28日44.60ドル、31日44.60ドル、9月1日45.10ドル、2日45.30ドルと推移した。

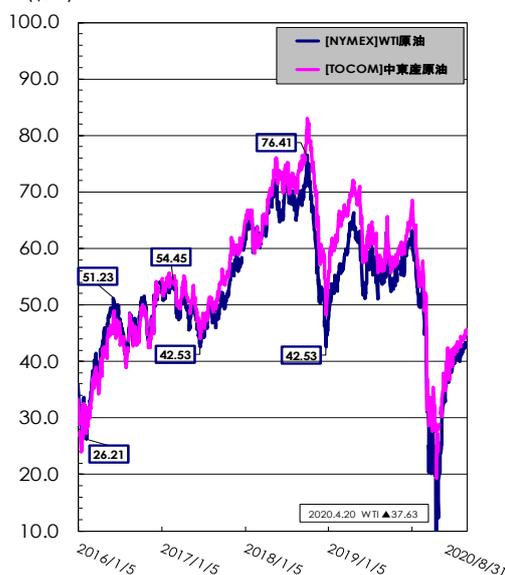
為替は8月20日~26日の間105.70~106.46円の範囲で推移した。8月27日105.93円、28日106.66円、31日105.36円、9月1日105.89円、2日106.02円で推移した。

財務省が8月28日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月上旬の原油輸入平均CIF価格は、27,919円/klで、前旬比4,283円高、ドル建て41.57ドルで前旬比6.53ドル高、為替レートは1ドル/106.77円。

そのような中で、8月31日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油も同1円(18%ベース)の値下がりだった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は16週ぶりの値下がりだった。この週(8月第5週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.5円の引き上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/23 ~ 8/29	2,612 ▼ -151	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	66.7 ▼ -3.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/29	13,047 ▼ -48	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/31	45.59 ▲ 1.37	▼ -11.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/31	42.61 ▼ -0.01	▼ -11.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月上旬	41.57 ▲ 6.53	▼ -25.82
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	27,919 ▲ 4,283	▼ -17,509
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.77 ▲ 0.46	▲ 0.40
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/31	106.36 ▲ 0.44	▲ 0.78

(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/23 ~ 8/29	928 ▲ 37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	869 ▲ 12	▲ -	
	輸出	"	12 ▼ -26	▼ -	
	在庫	8/29	1,836 ▲ 47	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/25 ~ 8/31	44.5 ▲ 0.2	▼ -12.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/25 ~ 8/31	41.0 ▲ 1.3	▼ -10.3
		(TOCOM/中部)	8/31	42.4 ▲ 0.9	▼ -11.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/31	135.2 ▼ -0.1	▼ -8.0	

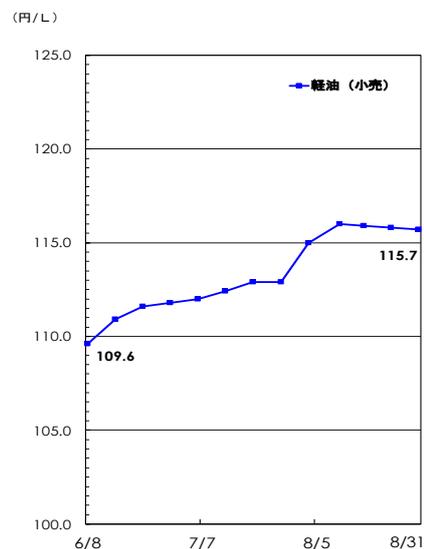
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

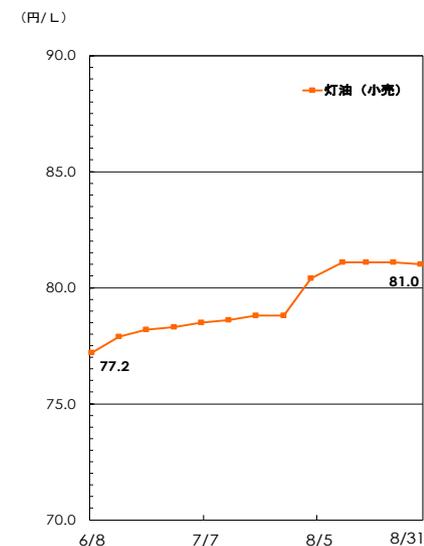
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/23 ~ 8/29	639 ▲ 61	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	644 ▲ 103	▲ -	
	輸出	"	42 ▲ 37	▼ -	
	在庫	8/29	1,819 ▼ -48	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/25 ~ 8/31	47.0 ▲ 0.1	▼ -11.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/25 ~ 8/31	48.9 ▲ 0.4	▼ -10.7
		(TOCOM/中部)	8/31	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/31	115.7 ▼ -0.1	▼ -8.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/23 ~ 8/29	216 ▼ -34	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	32 ▼ -24	▼ -	
	輸出	"	24 ▲ 24	▼ -	
	在庫	8/29	2,552 ▲ 160	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/25 ~ 8/31	46.9 ➡ 0.0	▼ -11.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/25 ~ 8/31	42.9 ▲ 0.8	▼ -12.6
		(TOCOM/中部)	8/31	45.5 ▲ 1.0	▼ -10.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/31	81.0 ▼ -0.1	▼ -9.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月2日のNYMEXのWTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、先週末の原油在庫が前週末比970万バレル減少と市場予想(370万バレル減)を上回る6週連続の取り崩しで、買い優勢で始まったものの、原油在庫減はハリケーンの影響に過ぎないとの見方やガソリン在庫の取崩量の前週からの減少、OPECの8月生産量が増加したとの報道、さらに、ドル高進行に伴う原油先物の割高感から、売りが膨らみ大幅に反落した。10月限の終値は前日比1.25ドル安の41.51ドル、11月限の終値は同1.23ドル安の41.85ドル。

EIAによると、8月31日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.0セント値上がりの1ガロン2.222ドル(62.4円/ℓ)、ディーゼルは同1.5セント値上がりの2.441ドル(68.5円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは3週ぶりの値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年8月23日～8月29日に休止したトッパ能力は36.8万バレル/日で、前週に対して1.7万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は261.2万klと、前週に比べ15.1万kl減少。前年に対しては105.6万klの減少。トッパ稼働率は66.7%と前週に対して3.8ポイントの減少、前年に対しては27.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.1%増、ジェット/36.7%増、灯油/13.4%減、軽油/10.5%増、A重油/9.1%増、C重油/3.5%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は4.2万kl(前週比3.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は86.9万kl(対前週1.4%増)と2週振りで増加となった。ジェット9.4万kl(対前週10.8%増)、灯油3.2万kl(対前週42.4%減)、軽油64.4万kl(対前週19.0%増)、A重油14.7万kl(対前週15.4%減)、C重油15.1万kl(対前週13.3%増)。

(単位:千L)

	今週 (8/23 ~ 8/29)	前週 (8/16 ~ 8/22)	前週比	
ガソリン	869	857	▲ 12	(1%)
ジェット燃料	94	84	▲ 10	(12%)
灯油	32	56	▼ -24	(-43%)
軽油	644	541	▲ 103	(19%)
A重油	147	173	▼ -26	(-15%)
C重油	151	133	▲ 18	(14%)
合計	1,937	1,844	▲ 93	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月29日時点の在庫は、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは183.6万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては28.5万kl多い。

灯油は255.2万kl、前週差16.0万kl増。前年に対しては20.2万kl多い。

軽油は181.9万kl、前週差4.8万kl減。前年に対しては14.0万kl多い。

A重油は73.1万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては1.3万kl多い。

C重油は189.4万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては0.3万kl多い。

(単位:千L)

	今週 (8/29)	前週 (8/22)	前週比	
ガソリン	1,836	1,789	▲ 47	(3%)
ジェット燃料	789	779	▲ 10	(1%)
灯油	2,552	2,392	▲ 160	(7%)
軽油	1,819	1,867	▼ -48	(-3%)
A重油	731	699	▲ 32	(5%)
C重油	1,894	1,887	▲ 7	(0%)
合計	9,621	9,413	▲ 208	(2.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月25日～31日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートもわずかに円安で、円建ての原油コストは値上がりであったと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比1.5円の引き上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月25日～31日の製品スポット市況は、8月18日～24日平均と比べ、陸上の灯油の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりとなった。

直近(8/25～8/31)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(8/18～8/24)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値上がりだった。直近(8/25～8/31)において、ガソリンは98～99円台で横ばい後値上がり、灯油は46～47円で横ばい後値上がり、軽油は46～47円台でほぼ横ばい後値上がりで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(8/25～8/31)に、前週比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は1.7円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(8/25～8/31)に、ガソリンは99～100円台で横ばい後値上がり、灯油は40～43円台で値上がり後横ばい、軽油は48～49円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、同期間(8/25～8/31)に、ガソリン94～95円台で値上がり、灯油42円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油48～49円台で値上がり後値下がりして推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/25～8/31)	前週 (8/18～8/24)	前週比
	レギュラー	44.5	44.3
灯油	46.9	46.9	▶ 0.0
軽油	47.0	46.9	▲ 0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

先物価格 [平均]	今週 (8/25～8/31)	前週 (8/18～8/24)	前週比
	レギュラー	41.0	39.7
灯油	42.9	42.1	▲ 0.8
軽油	48.9	48.5	▲ 0.4

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/25～8/31実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.8
灯油	▶ 0.0	▲ 0.8	▲ 0.4
軽油	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.3
A重油	▶ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

8月31日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月24日)比0.1円安の135.2円、軽油も同0.1円安の115.7円、灯油は18%ベースで同1.0円安の1,458円(1%ベースでは同0.1円安の81.0円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は16週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは11県、横ばいは12都県、値下がり24道府県となった。全国最安値は徳島県の128.5円(前週比0.1円高)、その次に安いのが宮城県の129.1円(同0.3円安)、最高値は長崎県の144.7円(同0.4円安)。最も値上がりしたのは、同1.7円高の滋賀県(133.1円)、横ばいは東京都他11県、最も値下がりしたのは

は、同2.2円安の石川県(133.4円)だった。今週(8月25～31日)は、原油価格は値上がりし、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(9月3～9日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.5円の引き上げとなった。次回調査時(9月7日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (8/31)	前週 (8/24)	前週比	直近高値
レギュラー	135.2	135.3	▼ -0.1	08/8/4 185.1
灯油	81.0	81.1	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	115.7	115.8	▼ -0.1	08/8/4 167.4

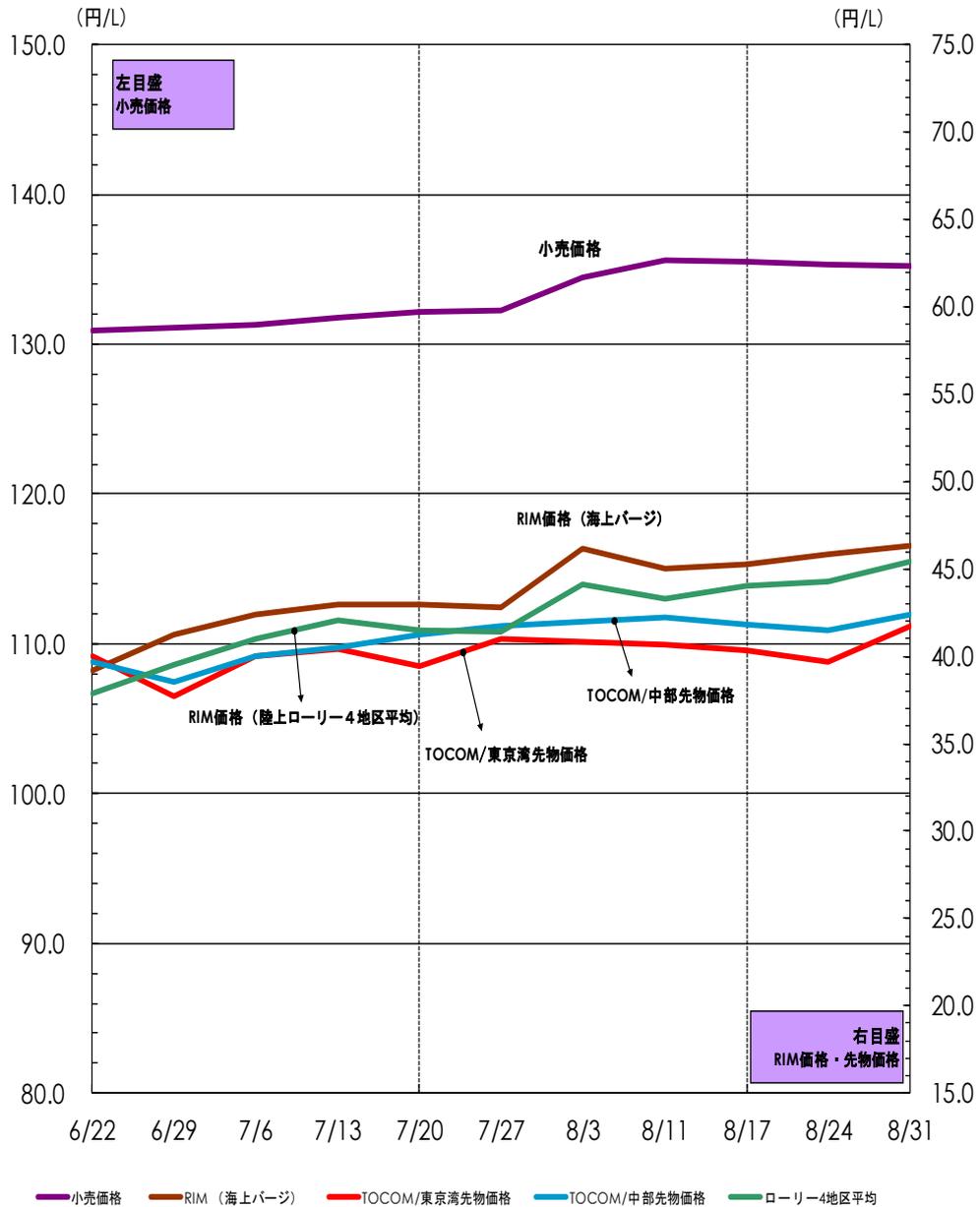
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/6/22 ~ 2020/8/31)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第11号)の公表は、9/11(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPIに掲載)。